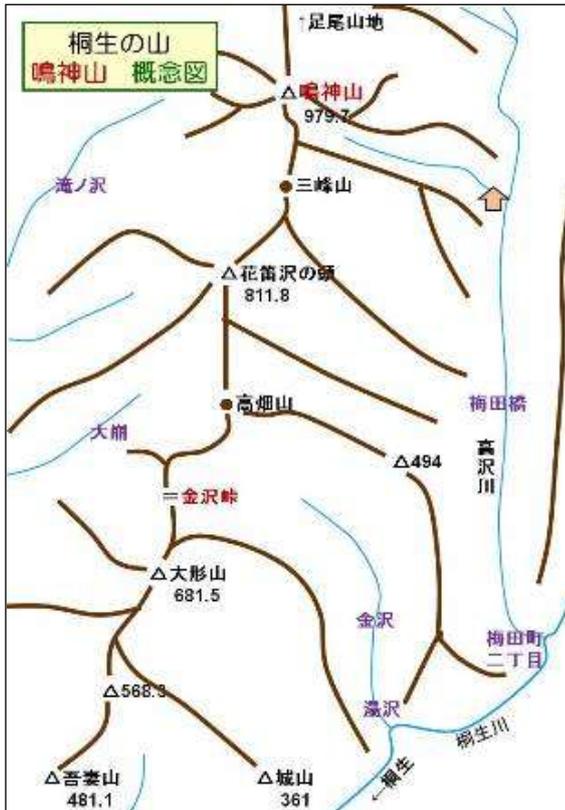


踏み跡 <My Mountains>

上州(桐生)	鳴神山	No.281
--------	-----	--------



館林に住むT君が寄席を開くことになり、応援と見物を兼ねて出向くことになった。寄席が終わると地元の方々との飲み会があるので、電車で行って日帰りするか、車で行って一泊するかしばし悩んだが、結論は極めて明快、「館林に一泊して翌日両毛線以北の山をどこか歩いて来よう」。いくつかの山を狙上にあげて時間的な問題等を検討してみた結果、桐生市の北部にある鳴神山を選ぶことにした。歌舞伎十八番の「鳴神」を思い浮かべて、何か意味ありげな山名と感じる「よさそうな山」である。おそらく雨乞いと関係した由来があるものと思われる。

平成9年9月13日

館林つつじ野たたら亭が終了し館林グランドホテルにチェックイン後、打ち上げに参加。打ち上げが終わってホテルに辿り着いたのは22時過ぎぐらいだったろうか。

平成9年9月14日

起床後シャワーを浴びてホテルを8時に出発。館林駅の横にある小さなコンビニエンスストアで朝食・昼食・おやつを購入し、まずは車の中で朝食。

国道122号線・50号線と関東平野を走り抜け、渡良瀬川を

渡ると背中に山を背負った桐生の町並み。桐生川を遡り、梅田からはさらに高沢川を遡って梅田橋に9時に到着。鳴神山の案内板が立っている路傍の駐車エリアに車を停めることにした。天気は曇り、身支度を整えて9時23分に歩行開始。高沢川の水音が絶えず耳に入って来る気持ちの良い田舎道が続く。

鳴神山登山口10時10分。登山口の脇にある樹徳高校山の家水道から水をいただいてタンクに詰めてすぐに出発。山の家敷地の中を通り抜けたところに登山道があった。登山道はかなりの傾斜で、しかも拡幅工事中でやや歩きにくい。途中で横切った沢の水を飲んだらやけに美味しいので、タンクの水を入れ替えた。とにかく沢の水音がたえることなく聞こえて気持ちの良い登山道だ。

稜線直下、あと20分ほどの地点までずーっと沢歩きが続いた。きのこ採りのおじさん何組かとすれ違ったので、背負っている籠の中を覗いて見たらウラボニホテイシメジが山盛り一杯入っていた。



鳴神山(979.7m)11時27分。見通しがきくし、いかにも山の頂上らしい雰囲気を持っている頂上だが、残念ながら曇り空で見えるべきものも見えない。昼食を取った後、晴れていないので恒例の昼寝はできずすぐに出発することにした。

(右写真：山へ来たって感じがする鳴神山頂上)

12時頂上を出発。尾根伝いに南へ進路を取る。三峰山(860m)・花笛沢の頭(811.8m)・高畑山(697m)と徐々に高度を下げていくが、いずれのピークにも山名の標識は建っていない。

足元を見ながら歩いていると、たしかにキノコは各種あるようだ。

斜面に降りれば収穫が期待できそうだが、霧雨が降ってきて濡れるのでやめた。

金沢峠(560m位か)13時45分。山頂ではゆっくり休まなかったなので、おやつを食べて中休止。のんびりしていたら霧雨は小雨に変わった。買ったばかりのザックカバーを取り付けて14時20分出発。

尾根の東側、金沢に向かう沢を小気味よく下って、観音橋に15時に到着。

今朝車を停めた梅田橋に15時25分に帰着。水の流れが得られる所まで車を移動して、洗面・洗腕・洗体をして、乾いたシャツに着替えて帰路に就いた。

「水の音と水の肌触りが心地よい鳴神山」というのが今回の山歩きの率直な印象である。

以上